



IoT技術研究センター

〔プロジェクト研究センター設置期間：平成30年4月～平成35年3月(予定)〕

センター長 | **長坂 康史** (ながさか やすし) / 情報学部 情報工学科・教授

共同研究者
(学内)

- 濱崎 利彦(はまさき としひこ) / 情報学部 情報工学科・教授
- 秦 淑彦(はたとしひこ) / 情報学部 情報工学科・教授
- 加藤 浩介(かとう こうすけ) / 情報学部 情報工学科・教授
- 大谷 幸三(おおたに こうぞう) / 情報学部 情報工学科・教授
- 山岸 秀一(やまざし しゅういち) / 情報学部 知的情報システム学科・教授
- 北上 始(きたかみ はじめ) / 情報学部 知的情報システム学科・教授
- 青木 真吾(あおき しんご) / 情報学部 知的情報システム学科・准教授

センターの概要

(1) 主たる研究分野

【分野】

情報学(計算基盤)

【キーワード】

IoT、情報基盤技術、情報通信技術、情報分析技術、情報利活用技術

(2) 研究概要

近年、情報通信技術の発展により、あらゆるものをインターネットに接続することで、情報を収集、分析し、その結果を利活用するIoT (Internet of Things) が注目されている。多くの分野で、生産性の向上や豊かで便利な暮らしの構築を目指し、IoTの導入が検討され始めている。

これは、政府が第5期科学技術基本計画で掲げた世界に先駆けた「超スマート社会」(Society 5.0)の実現の方向性とも合致しており、図1に示す超スマート社会サービスプラットフォームでも、基盤技術の一つとしてIoTシステム技術の様々な要素が取り上げられている。

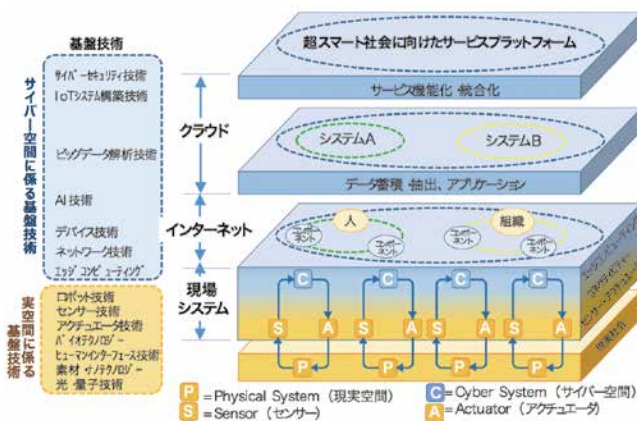


図1 超スマート社会サービスプラットフォームのシステムイメージ
出典:内閣府作成 第5期科学技術基本計画(関係資料)

このように注目されるIoTではあるが、その技術は発展途上であり、解決しなければならない多くの技術的課題が存在する。

そこで本研究センターでは、社会でこれから求められる高度なIoTシステムを構築するための先端技術の調査、開発、蓄積を行うとともに、これらの基盤技術を系統立てることを目的とする。

具体的には、IoTのデータの流れに着目し、システムを構築するための基盤技術を

- (1) センシング技術
- (2) データ収集技術
- (3) データ分析技術
- (4) データ活用技術

に分類し、それぞれの領域で研究を進め、それらを整理する(図2)。

さらに、地域企業との連携、また、研究会や講演会などの開催により、社会へ貢献することを目指す。

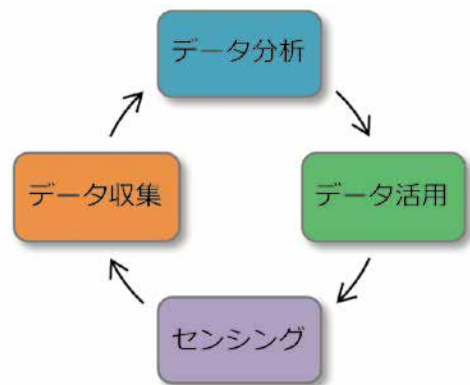


図2 IoT基盤技術分野

超スマート社会:必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会